

聖書：マタイ 16：15～18

説教題：教会の使徒性

日時：2017年2月5日（朝拝）

今日開いたのはピリポ・カイザリヤにおけるペテロの信仰告白の記事です。イエス様はここで弟子たちに「人々は人の子をだれだと言っていますか」と問い、次に「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか」と問います。これに対してペテロが答えます。「あなたは、生ける神の御子キリストです。」イエス様はこの答えを大変喜ばれて、ペテロに「あなたは幸いです」と言われます。そして「このことをあなたに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です」と言います。そして今日、特に注目したいイエス様の 18 節の言葉が出て来ます。ちなみに聖書クイズですが、福音書に「教会」という言葉は何回出て来るか、と問われたら皆さんは答えられるでしょうか。答えは 2 回です。マタイの福音書 16 章 18 節とマタイの福音書 18 章 17 節です。初めてこのことを知った人は、思ったより少ないと思うのではないのでしょうか。しかしそれだけにこの 2 つの箇所は貴重であり、大いに注目するに値する箇所ということになるでしょう。しかもイエス様はここで単に「教会」という言葉を使っただけではなく、「わたしの教会を建てる」と仰られました。ですからイエス様の教会とは何であるかを学ぶにあたって、ここは非常に重要な箇所ということになります。イエス様はここで何と言っているでしょう。イエス様は「わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます」と言われました。俄然重要になって来るのは「この岩」とは何であるかということです。その上にイエス様はイエス様の教会を建てると言われるのですから、この岩をどう理解するかは非常に重大なことになって来ます。

ご存知のようにローマカトリック教会はこの「岩」は使徒ペテロを指していると取り、これを教皇制の基礎にしています。18 節の「岩」という言葉には\*印が 2 つ付いていて、欄外の 18 を見るとギリシャ語で「ペトラ」と記されています。一方、その前の「ペテロ」という言葉にも\*印が付いていて、同じく欄外の 18 を見るとギリシャ語で「ペトロス」とあります。すなわちイエス様はここで「わたしはこの岩、すなわちペテロの上にわたしの教会を建てる」と言われた。そしてローマカトリック教会は、このペテロが後にローマに住んだ最初の教皇となり、以後の教皇は彼の権威を脈々と継承しているとします。そのローマ教皇に教会の全権が委ねられていると主張します。これに対してプロテスタントは反発します。誤りやすいペテロに教会の全権が委ねられるはずがない。

ペテロはこの後も 22 節以降で御心から外れた言動を取ってしまいますし、十字架前夜にはイエス様を知らないと言ってしまう。また使徒の働き時代にはユダヤ人を恐れて異邦人との交わりから身を引き、パウロに叱責されたことも聖書に記されています。そんな誤り得る人間に教会の全権が委ねられるはずがない。ローマ法王も誤り得る人間であって、その彼の上に教会が拠りかかるということはありません。そこでこの「岩」をどう取るかと言えば、かつて私が別の教会にいた時に聞いたのは、これはペテロの「信仰告白」を指しているというものです。イエス様はペテロの信仰告白に基づいて 18 節の言葉を語られたから、この岩とは彼の信仰告白のことである。教会は「イエスはキリストである」という信仰の上に建てられるのである。しかし結論から言えば、これも正しいとは思われません。確かにイエス様はペテロの信仰告白をきっかけにして今日のことを話されたのですから、「信仰」が重要であることはその通りです。しかしイエス様はペテロの上に教会を建てると言われました。ペトロスとペトラには明らかにかけ言葉的なニュアンスがあります。ではどういうことになるでしょう。答えは、イエス様はただ信仰告白の上に教会を建てると言われたのではなく、信仰告白をした使徒ペテロの上に教会を建てると言ったのです。そして合わせて考えるべきは、ペテロは 12 使徒の代表としてこの告白をしたということです。イエス様はもともと 15 節で「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」と複数形で尋ねられました。それに対してペテロは使徒たちを代表してこの告白をしたのです。このことは 19 節の言葉を他の箇所と考え合わせることも分かります。19 節でイエス様は「わたしは、あなたに天の御国のかぎをあげます」と、いわゆる「かぎの権能」について語られますが、もう一度このかぎの権能について語られている 18 章 18 節では何と書いてあるでしょうか。そこではかぎの権能を与えられる人々が「あなたがた」と複数形で語られています。つまり 16 章 19 節で述べられているかぎの権能はペテロー人に与えられたのではなく、使徒たちに与えられたものだったのです。それと同じように「この岩の上に」というイエス様の言葉も、ペテロー人を指しているのではなく、ペテロを代表とする「使徒たち」を指していると考えられます。イエス様はこのようにして、ご自身をキリストと告白する「使徒たち」の上に、わたしはわたしの教会を建てると言われたのです。

これがイエス様のご自身の教会を建てる方法でした。ですからイエス様は使徒たちを選び、彼らと共に生活されました。イエス様はご自分がすべてを一人でやってしまわれるのではなく、この使徒たちを通して、すなわち彼らがイエス様のそばでイエス様を直接見、その言葉に直接聞き、イエス様を味わい、やがてイエス様を証言するその働きを

基礎として、ご自身の教会を打ち建てようと言われたのです。イエス様は間もなく十字架にかかり、復活し、天に昇って行かれます。そうしたらどのようにしてキリストの教会は建てられて行くのでしょうか。それは使徒たちを通してです。実際、イエス様の昇天後の様子が記されている「使徒の働き」を見るなら、キリスト教会は、この使徒たちを中心にして発展して行ったことが分かります。この使徒たちなしではキリスト教会は存在し得なかったのです。

では今日はどういうことになるのでしょうか。押さえておくべき大事な点は今日、使徒はいないということです。使徒とはイエス様をその目でじかに目撃した証人であること、およびイエス様から直々にこの働きに任命された人であることが条件です。ですからイエス様が地上におられた後の世代には、もう使徒は存在しません。ではどうやって今日も使徒たちの上に教会は建てられると言えるのでしょうか。使徒たちは今日も証言しています。それは新約聖書の諸文書において、すなわち福音書、使徒の働き、手紙、黙示録においてです。ですからイエス様がこの岩の上にわたしの教会を建てると言われたところの「岩」とは、今日では一言で言えば「新約聖書」と言えます。今日、招詞で読んでいただいたエペソ人への手紙2章20節もそのことを語っています。「あなたがたは使徒と預言者という土台の上に建てられ」と。ある人は他の箇所でも、キリストご自身が土台と言われていることとどう調和するかと思うかもしれませんが、そこに矛盾はありません。なぜなら使徒たちはキリストを指し示す以外、何もしていないからです。私たちは新約聖書を読むことを通してただキリストのもとへ連れられて行くだけです。そういう意味で、使徒たちの教えが教会の基礎であるということと、キリストこそが教会の基礎であるということとは同じです。むしろ私たちがキリストという土台の上に築き上げられようとするならば、新約聖書の使徒たちの教えに注意深く聞かなければなりません。先にプロテスタントはローマカトリックに対抗して、この「岩」は信仰告白のことだと主張する傾向があることについて触れましたが、ただ信仰と言うだけでは不十分です。私たちの信仰は移ろいやすく、信仰と言うだけでは中身があいまい。そうではなく、私たちは「使徒たち」のところに、使徒たちの「教え」のもとに来なければなりません。そこに、イエス様はご自身の教会を建てられるのです。

このことを知る時、私たちは一層心して使徒たちの教え、聖書に固着するようにと導かれます。いつの時代にも新しい教えを吹聴する人たちがいるものです。イエス様もそのことを警告しておられました。「にせ預言者が多く起こって、多くの人々を惑わしま

す。」と。ですから使徒たちの教えにとどまる必要があるのです。イエス様は十字架前夜、ヨハネの福音書 17 章 20 節で使徒たちを指してこう祈られました。「わたしは、ただこの人々のためだけでなく、彼らのことばによってわたしを信じる人々のためにもお願いします。」ここに「彼らのことば」すなわち使徒たちの言葉を通してこそ、イエス様は信じられるべきであるとの主のことばがあります。また I ヨハネ 1 章 3 節：「私たちの見たこと、聞いたことを、あなたがたにも伝えるのは、あなたがたも私たちと交わりを持つようになるためです。私たちの交わりとは、御父および御子イエス・キリストとの交わりです。」ここにもこの手紙を書いた使徒たちを通してキリストおよび神との交わりがあると言われています。そしてヨハネの黙示録 21 章 14 節：「都の城壁には十二の土台石があり、それには、小羊の十二使徒の十二の名が書いてあった。」やはり使徒たちが教会また天の御国の土台石であることが示されています。ですから私たちはこの使徒の教えにとどまるべきなのです。これと異なる新しい教えには注意しなければならないのです。黙示録最終章 22 章 18～19 節にあるように、これらのことばに付け加えたり、逆に何かを取り除くことは禁じられています。私たちが知るべき神の啓示は使徒たちの証言において、すなわち新約聖書において完結しています。私たちは色々な教えの風が吹き荒れても、この使徒たちの教えに照らしてすべてをチェックします。イエス様はこの岩の上にこそ教会を建てられるからです。これが教会は使徒的であるということの第一に重要な意味なのです。

さてマタイの福音書 16 章 18 節でイエス様はこの教会の祝福について語っておられますので、そのことも見たいと思います。18 節後半：「ハデスの門もそれには打ち勝てません。」ハデスは死人が行く場所と考えられていた所です。その門は死者を中に閉じ込め、支配する力の象徴です。従ってこれは死の力、暗やみの力、さらにはサタンの支配を象徴します。しかし私たちが使徒たちを土台とするイエス様の教会の一部とされるなら、これらの暗やみの力に打ち負かされることは決してないと言われています。なぜならイエス様が、私たちのための十字架と復活のみわざによって、あらゆる悪の力から私たちを守って下さるからです。私たちはこの世にあって闇の力に脅かされる時があります。日々、様々な戦いの連続の中にあります。しかし使徒たちの教えを通してイエス様につながっているなら、ハデスの門さえ私たちに打ち勝つことはできない。これは何という慰めでしょう！私たちはこのイエス様の言葉を信じて、恐れなくて良いのです。このイエス様の方法に従い、イエス様と結ばれているなら、イエス様がくださる確実な勝利と栄光の祝福に向かって生きることができるのです。

最後に短く触れたいのは、使徒的な教会を考える際、私たちは使徒の教えにしっかり踏みとどまることを大事にすべきですが、ただそれだけをすれば良いのではないということです。使徒たちの教えは大事に安全に保つだけでなく、宣べ広められなければなりません。使徒たちはイエス様の教えを受けただけでなく、これを宣教するために各地に遣わされました。まずはガリラヤの諸地方に、そしてイエス様の復活後はエルサレムから始まってユダヤとサマリヤの全土および地の果てにまで伝えるようにとの命令をイエス様から受けました。マタイの福音書最後の 28 章の大宣教命令において、イエス様は「世の終わりまで、わたしはともにいる」と言われました。ですから世の終わりまでこのメッセージを全世界に宣べ伝えるようにとの使命を私たちはいただいています。このことを覚えて使徒的福音にしっかり立つとともに、使徒的宣教に励むことが使徒的な教会として大切なことなのです。

今日、私たちは杉並教会設立 58 周年を記念して礼拝しています。「わたしは、この岩の上にわたしの教会を建てます」と言われた主が、そのおことば通り、ご自身の教会を打ち建て、ここまで世界の歴史における教会の歩みを導いてくださいました。そしてこの私たちの群れも主がそのみからだの一部として養い育ててくださいました。そしてこれからも主はこの岩の上に、すなわち使徒たちの教えの上に、ご自身の教会を建てて行かれます。私たちはこの主の御心と導きを新たに感謝の内に受け止めて、これからもこの使徒たちの教えの上に堅く立つ教会として歩みたいと思います。その時、私たちは「この岩の上にわたしはわたしの教会を建てます」と語られた主の真実と恵みとに生かされ続けます。たとえどんなことがあっても、ハデスの門もそれには打ち勝てません。その恵みを味わい、賛美しつつ、主の教会の完成の日に向かって、使徒的メッセージを携え行き、主をあかす教会の喜びと光栄に導かれて行きたいと思います。